

第5回 農林水産省改革推進本部会合の概要

1 日 時 平成21年6月1日(木) 9:20～(25)

2 場 所 農林水産省第1特別会議室

3 出席者

石破大臣(本部長)、近藤副大臣、野村大臣政務官、井出事務次官、佐藤大臣官房長、針原大臣官房総括審議官、實重大臣官房総括審議官(国際)、吉田大臣官房技術総括審議官、長統計部長、町田総合食料局長、竹谷消費・安全局長、本川生産局長、高橋経営局長、吉村農村振興局長、佐々木技術会議事務局長、内藤林野庁長官、山田水産庁長官、皆川関東農政局長

4 概 要

石破本部長からの挨拶の後、資料に基づき農林水産省改革推進室等から説明を行い、意見交換を行った。本日の会合における主な意見は以下のとおり。

〔分かりやすい政策説明〕

- 分かりやすい政策説明というのは役所側が頭で分かっているだけでもダメである。現場に出て、それぞれの市町村や団体に説明して、なお、分からないといわれるところを直すことを繰り返すことで、変わっていくものだ。

〔改革の方向〕

- 改革の方向についてはいろいろ議論があると思うが、とにかく議論を起こすことがとても大事である。そうでなければ、次の段階に移っていくことができない。
- 今日・明日・明後日に成果が出るものではないかもしれないが、農林水産省がいろんな課題に正面から取り組むことによって、農林水産省は変わったと言われることになる。
- 世の中は今大きく動いているが、省改革の方向は不可逆にすることが大事だ。
そのためには、一人一人の職員が、改革について、とにかく納得・実感することが大事だ。

〔国民への対応〕

- 国民への対応は、農林水産省の回答はその人にとって必ずしも満足なものではないかもしれないが、農林水産省が一緒になって考えてくれる、一緒に悩んでくれると思ってもらうことが大事だ。

〔上司のチェック〕

- 今日議題になったような上司のチェックが十分でなかったという事例はどこでも起

こりうる。

上司が一々チェックしては仕事にならないが、誰がキチンとチェックするのかという体制は必要である。このための取組は、各局庁がバラバラ行うのではなく、省として統一して課長研修などで「こうしなければならない」ということを徹底していくべきだ。

- 食品安全研修に限らず、時々、「どうして、こんなことが起こるのか」という事案が起きるが、これは、個々の者の責任を問うという話ではなく、システムの問題だと思う。

〔現場感覚の共有〕

- 職員の業務が忙しいのは分かるが、できるだけ現場に出て、現場感覚を共有するよう to すべきだ。現場感覚を共有しながら議論していくべきだと思う。
- 学者のアカデミズムの世界と官僚の政策決定の世界との間に相当の乖離があると感じている。学問の世界、官僚の世界、政治の世界が全部違うベクトルに遠心力が働いては仕方がない。そこをつなぐのは行政であり、行政が学問をどのように活用していくのかということが大事だ。
- 幹部から現場の最前線の職員まで現場感覚を持つというマインドは共有してほしい。省改革というのは、本省だけでやっているものではない。本当に最前線に至るまで、私もやるんだ、何か改革することはないかというマインドを常に持つ姿勢が大事だ。

以 上